新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

今週の紙面

■2面　女性ニュース　■3面　読者のページ／まんが／短歌
■4・5面　ちょっと待った！『はじめての防衛白書』／ジェンダー講座／ホットライン
■6面　猛暑時の停電　暑さ対策／母の歴史　■7面　新婦人の活動／主張／いま教室で

神奈川・藤沢市　中村道子（74）

8月9日 長崎被爆80年
あの日を語り継ぐ

戦後・被爆80年の夏、核兵器をめぐる緊張が高まるなか、今こそ核兵器をなくそうと世界中で熱い活動が繰り広げられています。核戦争からいのちを守るため結成された新婦人は、粘り強い活動で、被爆者や世界の女性たちとともに核兵器禁止条約を生み出し、草の根から活動をつよめています。7月、日本被団協に平和賞を授与したノーベル委員会の委員長が、初めて受賞者の国を訪ね、講演（下）。日本では、条約参加を求める声が高まる一方、核保有を主張する国会議員が二桁にもなるなか、立場をこえた国民的運動のよびかけに応える時です（2面）。長崎の被爆者として運動の先頭にたつ横山照子さんに聞きました。

日本原水爆被害者団体協議会代表理事
長崎原爆被災者協議会副会長
新日本婦人の会長崎支部
横山 照子さん

世界の人びとの生命を託され

長崎に原爆が投下されてこの8月9日で80年になります。日本被団協がノーベル平和賞を受賞したこともあいまって、被爆証言をお話する機会が増えました。

選挙のなかで「核武装が安上がり」だとかいう政治家がいましたが、被爆者としては腹立たしいです。核兵器の恐ろしさを知らない。だから日本こそ絶対に核兵器禁止条約には参加しなければダメ。これだけは譲れないです。

ノーベル平和賞をもらったから、なおさら被爆者の中には責任ができたと思うんですよ。ノルウェー・オスロでの受賞式では、フリードネス委員長のスピーチを聞きながら、必死で証言活動を続けてきて、亡くなっていった仲間たちの顔が、一人ひとり浮かんできました。「あなた方は決して諦めない、抵抗し続ける力の象徴」だと、被爆者に光が当たり、感動しました。これは世界の人々の幸せと平和を願う賞ですから、世界の人々の生命を託されたような感じもするんです。だから本当に核兵器を一刻も早くなくす運動をつくっていかなきゃいけないなと思います。そのためには国民のみなさん、世界のみなさんの力を借りて、一緒にスクラムを組んでやっていきたいと思います。

新婦人長崎支部発行の被爆体験などを綴った『きのこ雲』

原爆の話は嫌だった

私はもともと原爆の話をするのは嫌だったんですよ。

4歳の時、父母と妹は長崎市内で被爆しました。私は原爆投下の9日後、疎開先から長崎に戻り、入市被爆しました。父は右目を失明、妹は病気のため学校に満足に通えず、44歳で亡くなるまでほとんどを病床で過ごすなど、いつもだれかが入院していました。いつも「原爆が悪い」と言いながら看病をしていた母も、胃がんで亡くなりました。

私が今日まで被爆者運動を続ける起点となったのは、新婦人だったんです。〈2面へ〉

昨年10月、ノーベル委員会はノーベル平和賞を被団協に授与しました。「核のない世界」を実現するためのたゆまぬ努力と、何十年にもわたり、言葉では言い尽くせない、核戦争がもたらす人道上の破滅的な結果についての証言を発信し続けてきた献身的努力を讃えての授与でした。

彼らの声は、時として方向性を見失いがちな世の中における道徳的羅針盤です。みなさんのおかげで、我われは核兵器の実態を思い起こすのです。それは決して抽象的な「抑止」の道具ではなく、大量の死をもたらす装置です。

被爆者は戦争の被害者であるのみならず、証人であり教師でもあります。みなさんの証言によって、核兵器使用は道徳的に許されないと烙印を押す力強い国際的な規範が醸成されました。この「核のタブー」と呼ばれる規範は壊れやすく、記憶は薄れていきます。現在新たな不安定な核の時代に突入する瀬戸際にあります。核兵器保有国は兵器の近代化を進め、新たな核兵器を取得する準備を進めている国もあり、公の場で核兵器使用の脅しがなされています。このような状況に直面し、我われは被爆者のメッセージの中核にある真実に立ち戻る必要があります。

みなさんがなさっている記憶のための活動、資料展示、資料保存、文献の作成、アート、教育はすべて平和のための作業、軍縮の一部であり、われわれが子どもたちに住んでもらいたいと思う世の中をつくる努力の一環です。そして抵抗の運動となり、変革の力ともなり得るのです。

忘却を許してはなりません。あなた方は核兵器が実際にどのようなものであるか、世界がはっきりとわかるよう手伝ってくれた。あなた方は世界が必要としている光です。

若者のみなさん、あなた方がこの記憶の未来における管理人です。あなた方がこの真実の新たな世話役です。物語を語りあい、歴史を学び、忘却に抗い、声を上げよう。なぜなら、私たちの生存はそれにかかっているのですから。〈要旨〉

講演

忘却に抗（あらが）い、声を

ノルウェー・ノーベル委員会委員長
ヨルゲン・バトネ・フリードネスさん

8月16日号は休刊です

発行所　新日本婦人の会　〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-20 電話03(3814)9141(代)
New Japan Women's Association　編集部 03(5805)2370/Fax 03(5805)2372 振替00150-7-74582
https://www.shinfujin.gr.jp　1部105円　月410円（いずれも税込み、送料別）、会員は会費に含む

©新日本婦人の会2025年
入会はこちら